

チャレンジ！！オープンガバナンス 2016 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注)	No.	タイトル	自治体名
	25	地域住民の安全安心のため、防犯パトロールや通学路の見守りなど日々活動をしている自主防犯活動団体（自治会、町内会等）に、学生や現役世代ができること	神奈川県
アイデア名 (公開)	目指せ犯罪ゼロ！住みやすい街 緑園都市 —緑園の犯罪被害0を目指し、市民の力で安心安全なまちづくりを目指す—		

(注) 地域課題タイトルは、COG2016 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

1. 応募者情報

チーム名 (公開)	FerriSat (Ferris Security equipment Application Toothbrush)		
チーム属性 (公開)	☐ 1. 市民によるチーム ☐ 2. 学生によるチーム ☒ 3. 市民、学生の混成によるチーム		
代表者情報	氏名 (公開)	市川 華子	

※ 公開条件について

次ページ以降の「2. アイデアの説明」でご記入いただく内容は、内容を確認した上で、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、
<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

(注意書き)

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2016_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2016 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin_padit_cog2016@pp.u-tokyo.ac.jp

<公開非公開など>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、代表者氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
4. この応募内容のうち、「審査項目自己評価」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。
5. 「アイデアの説明」中に、文章、写真、図画などで応募したチーム以外に知的所有権が属する箇所がある場合には、法令に従った引用や知的所有権者の許諾を得るなどをした旨をそれぞれ注として書いてください。「審査項目自己評価」中も同様をお願いします。

<チームメンバー名簿>

6. チームメンバーは別紙のエクセルファイルに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は COG 事務局からは非公開です。詳細は別紙をご覧ください。)

2. アイデアの説明（公開）

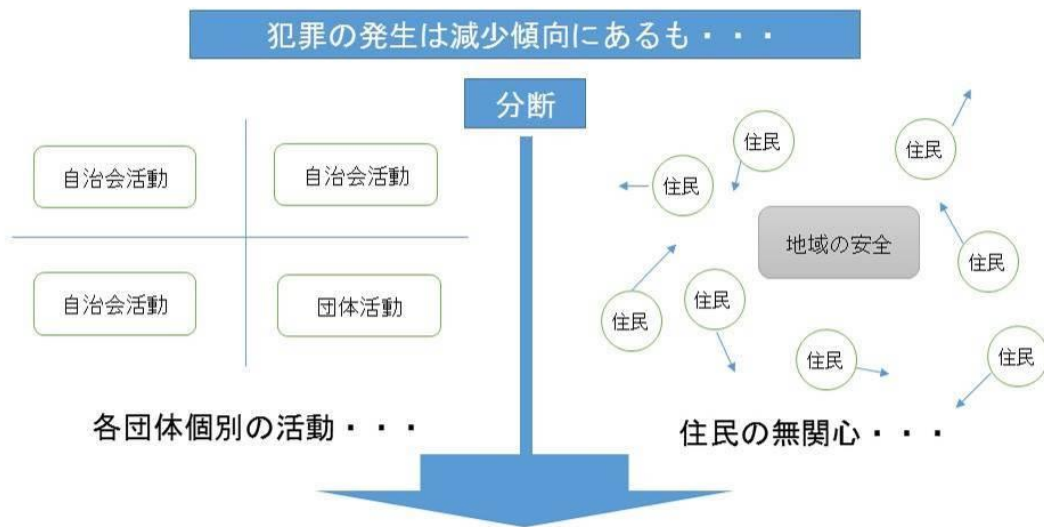
データや資料を活用して課題の具体化とその解決につながるアイデア（公共サービス）のストーリーを語ってください。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、だれがする、何をする、どこでする、いつする、どのようにするものなのかを考えて、各要素を入れて内容を描きストーリーを整理していくとよいでしょう。以下の欄内でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

● 緑園地区の防犯環境を取り巻く現状

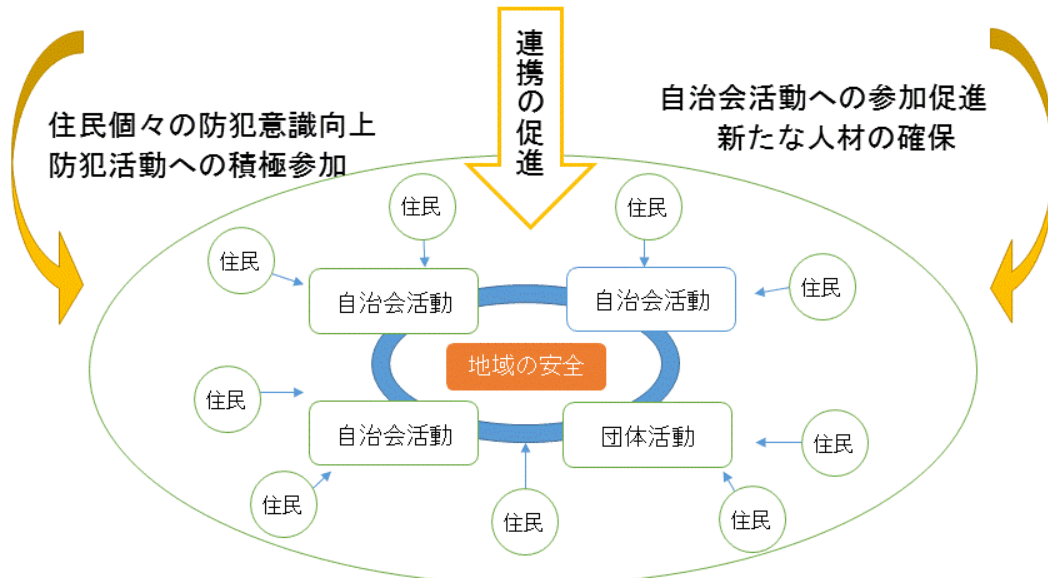
多様な防犯活動があり、犯罪の発生は最小限に抑えられているが、ゼロではない。



私たちの提案
緑園地区の犯罪 0（ゼロ）を目指して!!

アプリの開発

情報の可視化（防犯パトロールのリアルタイム表示、危険場所など）
防犯と生活情報の融合（天気、健康、クーポン情報など）



地域活動に学生が加わることによる、興味・関心の向上と若い層への活動の普及効果も期待できる。

(2) アイデアの論拠（公開）

アイデアの論拠（なぜこのアイデアにするのか）を、それをサポートする数値データ（実績、統計やアンケートなど数字であらわされるもの）や証拠（資料や計画、既存の施策など）（以下：総称して「データ類」といいます）などを含めつつご記入ください。数値データや証拠は出所を明らかにしてください。以下の2ページの欄内におさまるようお願いします。

○ 緑園地区の概要について

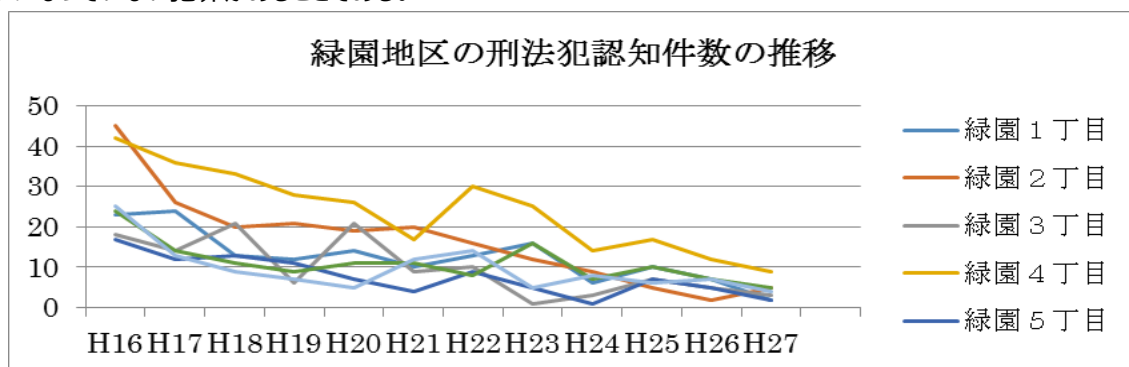
フィールドワークで分かったことや地元自治会の方からのお話を元に緑園都市の特徴を4つあげる。

1. 緑園都市は東京から35km圏、横浜市西部地域を走る相模鉄道いずみ野線（二俣川～湘南台）緑園都市駅を中心とした開発総面積122万3千3㎡、計画人口1万8千、計画戸数4738（一戸建住宅2834戸、1761戸、その他143戸）として1974年区画整理事業方式により開発され、1986年11月から販売開始された住宅地である。（引用：
http://www.ryokuen.gr.jp/external/rca/rca/what_rca.html）
2. 緑園都市コミュニティ協会(Rokyuenn_toshi Community Association、以下「RCA」とする。)が設立されている。緑豊かな住環境に恵まれた緑園の街全体を共有財産として捉え、いつまでも住みよい街として維持管理して行こうと、1987年4月、地権者、物件購入者、開発業者が一体となって旧来の自治会組織とは別に、日本では始めて住民主体のまちづくり組織・RCAが設立された。（出展：同上）
3. アメリカ・ニュージャージー州ラドバーンに1929年に作られた歩車分離というコンセプトで作られた街と同様に開発された街で、クルトザック（袋小路）やループターン（輪状の道路）が採用され、景観や安全に配慮された街づくりを行っている。
4. 一方で、フィールドワークをして感じたことは、交通量の多い広い道路に面した古いアパートが多くあるが、入り口が裏側にあり、ドアが大通りに面しているアパートはほとんどなかった。

→人目に付きにくく、犯人が侵入しやすいのではないかと感じた。

○ 犯罪発生状況について

数値データとして、まず緑園地区の刑法犯認知件数のグラフを挙げる。これから分かることは、年々件数が減っているが0になっていない犯罪があることである。



出典：神奈川県泉警察署提供データ

犯罪別前年同期比増減数（平成 27 年 10 月末現在）

警察署	栄	金沢	港南	磯子	南	戸塚	泉	保土ヶ谷	瀬谷	旭	神奈川	鶴見	港北	都筑	緑	青葉
自転車	47	-56	-22	-3	-32	-11	88	17	46	-84	-54	-7	-98	7	-14	-16
オートバイ	-5	-14	7	-11	-28	-19	18	-14	30	-37	-45	-16	-65	-51	-31	-37
自動車	-4	-6	-1	±0	-2	-10	-14	1	-12	5	-14	-2	-5	-16	-6	-14
車上	-2	-1	6	12	70	-45	-21	2	-22	-4	11	20	53	14	-9	-1
ひったくり	6	-2	-15	-2	6	-4	-3	-6	-4	-10	-4	-11	-6	-2	-1	1
空き巣	5	-11	-23	13	-14	-14	-13	-8	2	-25	-14	-24	-16	26	-19	-53
合計	47	-90	-48	9	0	-103	35	-8	40	-155	-120	-40	-137	-22	-80	-120

出典：神奈川県警察の犯罪統計

○ 緑園地区における防犯の取り組みについて

フィールドワークにおいて、RCA 事務局長秋山氏をはじめ自治会等で防犯活動を担う方々に、地域で行う防犯活動の現状について聞き取り調査を行った。

1. 緑園地区防犯パトロール協議会による青色パトロールについて

RCA 下部組織である緑園防犯パトロール隊によって行われ小学生・学生(女子大生中心)・女性が歩いている時間帯 14:00/17:00 の 1 日 2 回行う。1 回に運転する人と日報つける人の 2 人でパトロールをしている。

2. 各町内会での取り組み

月 1～2 回夜 20:00 前後にパトロールしている。3 丁目に限り、駅に近く犯罪が起きやすい為、月に 3 回実施している。

3. 警備業者による警備

RCA が設立してから始まったコンフォート 24 オペレーションセンターによる管理がある。セコムのような役割を担っているが、より地域に根付いているものであり、1 日に 2 回巡回している。セキュリティ団体として入るため、緑園地域に住む人は皆入るシステムになっている。

4. その他、個人的な活動

わんわんパトロールやフラワーポットプロジェクトが自主的に行われており、小学生の帰宅時間に合わせての犬の散歩や花の水やりが推奨されている。

5. 現状の問題点

- ・ 活動人員が固定化、高齢化しており、女性の参加も少ない。
- ・ 住民の多くが自治会活動や地域の安全について無関心である。
- ・ 新たな活動の担い手が育っていない。

防犯パトロール隊員年齢別表

年齢別	60～64 歳	65～69 歳	70～74 歳	75～80 歳	80 歳以上	計
男	0	6	6	9	1	22
女	2	3	0	0	0	5
計	2	9	6	9	1	27

出典：RCA より提供

- ・ 現状の防犯活動は、自治会ごと個別に活動しており、地域が一体となって活動を行う取り組みがない。

以上のとおり、緑園地区では犯罪が減少傾向にあるものの、今後の活動への課題が認められた。

よって、それら問題を解決する手段として、住民の防犯活動への積極参加と自治会相互の連携を促進するための機能を有したアプリ開発を提案することとした。

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現にいたるプロセスとマイルストーン等、アイデア実現までの大まかな流れについて、以下の欄内におさまるよう、簡潔にご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

この活動は、RCA とフェリス女学院生が協働して緑園都市に住む人々へ向けて主体的に活動を行っていく。

1. アプリの提案（フェリス女学院大学→RCA）

【アプリ概要】

2016 年 3 月 1 日に警視庁が開発した「Digi Police」（公開捜査情報を確認したり、地図上で犯罪情報を表示したりできるアプリ）を参考とする。

(1) 防犯パトロール情報の共有

緑園都市の防犯対策を行っている自治会と連携し、防犯パトロール実施コース、時間帯などをマップに表示する。また、自治会相互で効果的な防犯パトロールを実施するため位置情報サービスを利用しリアルタイムで防犯パトロール実施状況を共有する。

(2) 危険情報の表示

地元警察署のからの情報提供や、小中学生による防犯マップの作成により危険場所や犯罪発生箇所を地図上に落とし込むことで、位置情報サービスを利用し、今自分がいる場所で過去にどのような事件が起こったのか、安全なのかそうでないのかがすぐに分かるシステムにする。

(3) 生活情報の表示

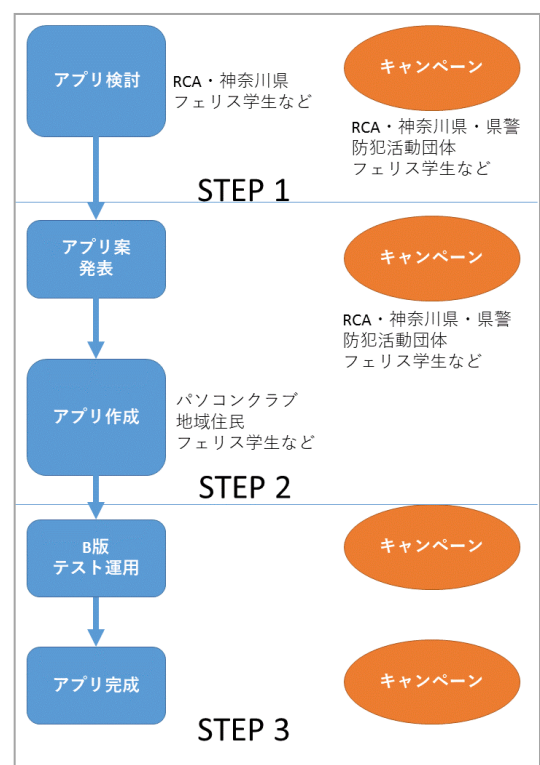
このアプリは、全面的に防犯対策を行っているというよりは、住民が興味を示しやすい生活情報（天気予報・万歩計・クーポン情報など）と関連づけられたもので、付随して防犯対策までできている、と利用者に感じてもらう。

2. アプリの作成（要調整）

- ・ RCA 出資によるアプリの開発
- ・ RCA のパソコンクラブを中心に、地域住民に呼びかけを行い、シビックテックを活用した開発の検討

3. アプリの普及啓発（RCA とフェリス女学院大学学生による協働）

- ・ アプリ普及啓発のための啓発品の企画（フェリス女学院大学学生）
従来の使い捨てで終わる防犯啓発物品（ポケットティッシュなど）ではなく、手にした人が日常的に目にしやすい物品(歯ブラシなど)を学生企画により作成。
- ・ フェリス女学院大学の学生企画によるアプリの普及啓発と地域住民の防犯意識高揚のための防犯キャンペーンの実施。



アプリ開発と啓発キャンペーンの計画

学生企画による、RCA と協働したアプリ普及啓発を目的とした防犯キャンペーンを開催し、キャンペーンにおいて上記啓発物品を配布する。併せて、住民の防犯意識向上を図るため地元自治体、警察署と連携する。

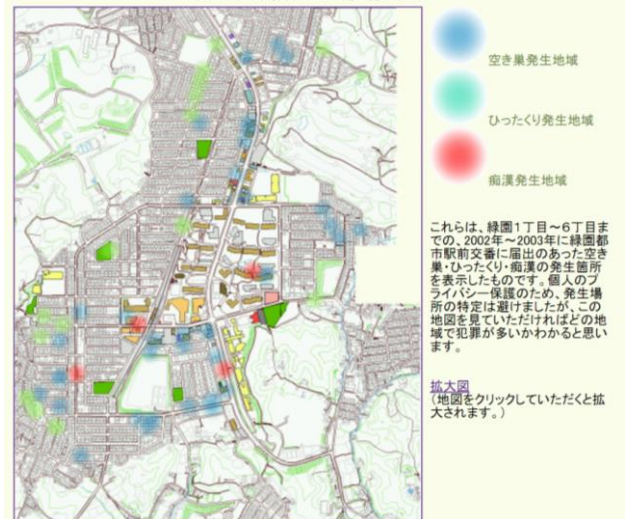
(4) そのほか（公開）

アイデアのアピールポイントや、アイデア実現に当たっての制約があればそれとその当面の解決方法、さらに将来の発展可能性（例えば「将来的にxxという制約をクリアできれば、追加で○○ということが実現できる」など）について、以下の欄内におさまるよう、簡潔にご記入ください。

【アイデアのアピールポイント】

アピールポイントを、以下にあげる。

- ① 週一回、神奈川県、緑園都市コミュニティ協会（RCA）、フェリス女学院大学の3組織が話し合う機会を持ち、より深い議論ができた。
- ② 2002年～2003年にフェリス女学院大学GIS研究会が作成した犯罪発生マップ（右図参照）は、その後の事情により止まっていたが、このデータをもとに、古いデータと新しいデータを有効的に活用し、フィールドワークやアプリの開発検討に役立てることができた。
- ③ 地域へのヒアリングを行ったことで、バラバラであった活動やデータを整理することができた。この検討をもとに、今後、アプリの完成に向け継続的に活動することにより、多くの層への興味関心を持たせることが期待できる。また、防犯活動へのあらたな参加者も期待できる。これまで、パトロールに参加する人、防犯活動に関わる人は、若者が少なく、ほとんどが高齢者であったが、アプリ開発により若者が参加するきっかけになるであろう。
- ④ アプリを使うことで、目につきにかった防犯活動を広く周知させ、パトロールへの関心や参加のきっかけを作ることが期待できる。犯罪という負のイメージを持つデータを、別の形で提供することによる効果について、今後期待できる。また、他の地域への先進モデルとしての発展が期待できる。
- ⑤ 産官学民連携を実現し、大学が地域に貢献できる。また、意欲的な市民活動への参加で新たなコミュニティが生まれる。



犯罪発生マップ（*）

*（出典：http://ferris-gis.my.coocan.jp/GIS2003/map_bouhan02.htm）